

社会教育クローズアップ

北海道MA+CHプロジェクト（地学協働まちづくり推進事業）進行中です

本号では、昨年までの北海道 CLASS プロジェクトに続き、今年度から3年間の計画でスタートした「北海道 MA+CH プロジェクト」について御紹介します。

「北海道 MA+CH プロジェクト」は、学校と地域がともに学ぶ取組をとおして、相互に連携する体制を構築し、持続可能なまちづくりに資する本道の未来を創る人材を育成することを目的としています。事業のポイントは、①持続可能な社会の創り手となる人材育成、②地学協働体制の構築であり、地域課題探究型の学びをとおして生徒を育成することが求められます。全道14管内から、普通科もしくは総合学科を設置する道立高校が1校ずつ指定されており、十勝管内は、北海道音更高等学校が指定校となり、既に様々な活動が展開されています。以下にこれまでの取組の成果を示します。

北海道音更高等学校 北海道 MA+CH プロジェクト 取組の成果（1年次 中間報告より）

持続可能な社会の創り手となる人材育成

☆生徒の「声」より

- ・「観光 PR パンフレットの作成で、音更町の素晴らしさを発信していきたい。」
- ・「販売してもらえそうな、地産地消のどらやきを皆でつくりたい。」
- ・「子どもや女性を含めた幅広い年代に食べてもらえるカレーを作りたい。」

☆生徒や地域の方の変化

- ・地域の方を講師に迎える授業では、回数を重ねるごとに、生徒の主体的な発言や地域貢献に対する意欲の向上がみられる。
- ・高校生に「頑張って」などの励ましの声かけや、地域イベントへの参加の働きかけをする方、MA+CHプロジェクトへ協力する企業が増えた。

地学協働体制の構築

☆「道立高校」と「町」の垣根を越えた連携

MA+CH プロジェクトをきっかけに、道立高校である音更高校と音更町教育委員会が、より関係を深めることができた。

連携の具体例：

- ・町職員による出前授業の実施（農産物について 他）
- ・町教委作成「外部講師人材リスト」の活用

☆コンソーシアム構築による連携

MA+CH プロジェクトをきっかけに、町内で情報共有をするためのコンソーシアムが構築できつつある。

コンソーシアム例：

高校教職員、音更町、商工会、農協、町内中学校長会、振興局 他

町内企業と連携した、カレーやどらやき作り、観光パンフレット制作は、新聞記事等でも紹介されています。また、本事業を含む、音更町教育委員会の地域学校協働活動に関する取組は、今年度実施された地域と学校の連携推進協議会および地学協働セミナーなど各所で実践発表がされています。事業については、道教委 HP を、音更町の取組に関しては、実践発表の様子を掲載した社会教育クローズアップ第17号で御確認ください。



【発行・お問合せ先】

北海道教育庁十勝教育局

北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班（皆川・福原）
住所：〒080-8588 帯広市東3条南3丁目
電話：(0155) 26-9243（直通） 平日 8:45～17:30
E-mail：fukuhara.natsumi@pref.hokkaido.lg.jp